

第1回 奥日光快適で持続可能な地域交通推進協議会 議事録要旨

令和8（2026）年8月4日
栃木県県土整備部交通政策課

1 日 時 令和8（2026）年8月4日（火）15：00～16：30

2 場 所 栃木県総合文化センター 第3会議室

3 会議名 第1回 奥日光快適で持続可能な地域交通推進協議会

4 出席者

森本委員、大澤委員、長田委員、星野委員（代理：篠崎様）、植田委員、五味淵委員、小矢島委員、小菅委員、内倉委員、神保委員、日光市関係各課、栃木県関係各課、栃木県日光土木事務所

【オブザーバー】林野庁日光森林管理署、国土交通省栃木運輸支局

5 結果概要

（1）あいさつ（栃木県県土整備部参事兼交通政策課長）

（2）奥日光快適で持続可能な地域交通推進協議会の設置について

資料2及び資料3に基づき、事務局から説明

⇒規約については、案のとおり決定した。また、委員の互選により森本委員が座長に選出され、座長から大澤委員及び長田委員が職務代理者に指名された。

（3）議 題

【議題1】奥日光地域における交通の現状及び課題について

資料4に基づき、地域における交通の現状及び地域が抱える課題について、事務局から説明

⇒奥日光地域における現状や取組及び地域課題について共有し、各出席者から以下のとおり意見を聴取した。

・奥日光地域では、災害時に地域が孤立する事案や強風等による停電も発生しており、住民・事業者の生活・業務に支障が生じているため、交通・電力のレジリエンス向上は重要な課題である。そのほか、脱炭素に関しては、地熱発電の可能性を調査しており、再生可能工

エネルギーを活用できれば、自動運転を含む脱炭素型の交通・観光地づくりにつながる可能性があるため、地域で対応できることを進めていきたい。（星野委員代理：篠崎様）

- ・湯元では学生団体の受入れが多く、宿泊施設にも学生が滞在している関係から、学生を乗せた観光バスが多数来訪しており、特にいろは坂では 8 時頃や 15 時頃の時間帯には混雑が生じている。第二いろは坂は 2 車線があるため比較的影響が少ない一方、第一いろは坂は所要時間が大幅に増加する。また、休日には自転車でいろは坂を登る利用者も多く、自転車利用を促進する場合には、安全確保のためのルールや規制等も検討が必要ではないか。（植田委員）

- ・ゴールデンウィークや紅葉期には特に混雑が激しく、東武日光駅から神橋まで 1 時間、中禅寺湖まで最大で 5 時間程度を要する場合がある。このような状況は、バス運転者の労働時間にも大きな影響を及ぼしている。また、渋滞によって移動時間の見通しが立たないことから、旅行会社が団体旅行商品を組成しにくくなっている。渋滞を減らす対策を講じることができれば、団体旅行客の増加にもつながるのではないか。（小矢島委員）

- ・秋の繁忙期には、東武日光駅から奥日光方面へ向かう利用者に対し、帰着時刻が見通せないことから、時間帯によってはバスを利用しないよう案内せざるを得ない状況となっている。鉄道においても、山上から到着するバスを待ってから特急列車を発車させるなど、通常とは異なる対応を行っている。そのほか、来訪時間を分散させる取組を実施しているが、民間事業者だけで講じられる対策には限界があり、引き続き関係者とともに検討を進めたい。（内倉委員）

- ・市としても交通対策は重要な課題であると認識している。本協議会において各業界・関係者の意見を伺いながら、協働により持続可能な地域交通を構築していく必要があると考えている。（日光市総合政策課）

- ・アクセスの悪さや、冬季のいろは坂の通行に伴う負担が当たり前となっている状況を認識している。本協議会が、こうした従来の常識を変える契機となることを期待している。交通を先に整備するのか、観光振興を先に進めるのかという議論もあるが、両者を同時に進め、関係者が意見を出し合うことが重要である。また、専門の農学・林学分野の観点では、奥日光には豊かな森林や動植物が存在するため、自然環境の保全を図りながら、自然、観光、地域住民の暮らしを両立させ、自然と人が共生する地域としていくことに意義がある。（大澤委員）

- ・奥日光地域を含む管内の国有林については、木材生産だけでなく、観光、森林レクリエーション、生物多様性保全等の観点も踏まえて管理している。本協議会での議論には森林管理と関わる部分もあるため、今後の検討に協力していきたい。（林野庁日光森林管理署）
- ・国土交通省では、交通空白の解消や担い手不足への対策を進めている。日光市においては観光期の渋滞対策が喫緊の課題であることから、他県・他自治体におけるライドシェア等の取組も参考に、新たな交通手段の活用可能性について意見を出したい。（国土交通省栃木運輸支局）
- ・インバウンドを含む観光客に来訪してもらう中で、渋滞を経験した結果、「二度と来たくない」と感じられることは避けなければならない。目的地を変更することは難しいため、目的地までの交通手段や経路について、新たな選択肢を検討する必要がある。なお、事務局に、地域が抱える課題として、救急医療・救急搬送の状況について確認したい。（長田委員）
- ・消防・警察へのヒアリングによると、奥日光地域における救急搬送は年間約 196 件であることを確認している。通常は 30 分程度で搬送できる場合でも、渋滞時には 2 時間程度を要することがある。また、冬季には路面凍結により搬送に不安が生じるなど、救急活動に支障が生じる状況が確認されている。（事務局）
- ・奥日光には診療所が設置されているが、診療時間が限られ、土日も休診であることから、住民や観光客は必要に応じては坂を下って医療機関を受診する必要がある。人命に関わる問題であるため、二次・三次救急へのアクセスや、ドクターヘリ等の活用も含めて検討すべきである。（星野委員代理：篠崎様）

【議題 2】今後の進め方について

資料 5 に基づき、今後の進め方及び「奥日光交通ビジョン」の構想について、事務局から説明
⇒ 検討事項及び協議会のスケジュールについて共有し、各出席者から以下のとおり意見を聴取した。

- ・交通上の課題が解消され、地域への来訪が促進されれば、相当の経済効果が期待できる。コミュニティサイクル事業について、約 10 年前から民間事業者と連携して取り組んでいる。一方、公共的な土地を借用して駐輪スペースを設置することが難しく、事業展開に課題がある。今後は日光市とも協力しながら、事業を展開していきたい。（五味洲委員）

・東日本旅客鉄道株式会社としては、観光地としての魅力を発信することを目指している。日光駅までの輸送だけでなく、駅から目的地までの二次交通への接続について、どのように貢献できるかを検討したい。（神保委員）

・人口未来課は今年度新設された部署であり、人口減少への対策を推進している。地域公共交通は人口減少対策とも密接に関わるため連携していきたい。（栃木県人口未来課）

・奥日光の豊かな自然を訪れるために、自然環境に負荷を与える自動車に依存せざるを得ないというジレンマがある。県が目指すカーボンニュートラルの実現に向け、渋滞を段階的に解消していくことは重要と考えている。脱炭素先行地域に関する取組を支援する立場から、日光市や地域の関係者と協働して各種施策に取り組んでいく。（栃木県気候変動対策課）

・バス事業では、運転者不足・担い手不足により、現在のサービス水準を維持することが難しくなっている。事業者として採用活動や職業の魅力発信等を行っているものの、事業者単独での解決には限界がある。交通ビジョンの検討と並行して、行政にも担い手確保に取り組んでもらいたい。（小矢島委員）

・既存施設を含めたホテル従業員は約 500 人におり、多くの従業員は今市地区等に居住し、自家用車又は会社の送迎バスを利用して通勤している。繁忙期には通勤に 6 時間を要することがあり、長時間勤務や労務管理に深刻な影響が生じているほか、自動車利用の増加は環境面でも問題となっている。本協議会においても、交通施策と併せ、居住・就労環境について検討してほしい。（星野委員代理：篠崎様）

・本協議会は地域交通を扱う場であるが、地域交通の取組は、地域住民や地域で働く人々の生活を支えるために進めるものである。地域の実情に関する情報を収集・整理し、次回以降の協議会で議論していきたい。（森本座長）